



## 教育活動中間報告～学校アンケートより～

### I 12月（2学期末）アンケート結果の傾向と分析

肯定率…「よくできた」「できた」の2つの評価を「概ね満足している」ととらえた割合。

（矢印は7月（1学期末）との比較…↑アップ、↓ダウン、＝同数値）

評価項目（太枠がR4重点項目）		児童(%)	保護者(%)	教職員(%)
1	学校が楽しい	92↑	96↑	100＝
2	みんなで何かをすることは楽しい	97↑	99↑	100＝
3	めあてを守って『なりたい自分』に近づいた (生活づくり)	89↑	67↑	100↑
4	友達に気持ちの良い挨拶をしている (生活づくり)	89↑	78↓	82↓
5	友達と一緒に学習するのは楽しい	93↑	91↑	91↓
6	授業へ主体的に取り組んでいる	88↑	84↑	91↓
7	授業で自分の考えを進んで伝えた (学びづくり)	78↓	59↑	63↓
8	信頼できる先生がいる	93↑	86↑	
9	進んで読書をしている (学びづくり)	76↓ (学校で)	34↓ (家庭で)	100↑ (学校で)

#### ○全体的な評価について

- ・1学期と比較して、多くの項目で数値が向上しています。児童、保護者、教職員共に、肯定的で高い評価を得られました。「一人一人が輝く学校」を目指す中で、学びに向かい、生活を楽しんでいると感じられる児童が多く、集団生活の中で関わり合う良さを実感できていると感じます。
- ・「学校が楽しい」と感じる児童が1学期に比べて7%上昇しました。この1年間の学び方の工夫や励ましの言葉掛け等を通して、子ども同士の関わりはもちろんのこと、教職員と子どもの関わりでも、取り組みの成果が実ったと考えられます。

#### ○グランドデザインに掲げた評価項目（太枠の部分）の数値目標の達成について

- ・「めあてを守って『なりたい自分』に近づいた」（No.3）では、「当てはまる」が58%、「どちらかと言えば、当てはまる」が31%でした。1学期の振り返りを

基に、各月で「なりたい自分」になるために自分ができたことを子ども同士で伝え合い、お互いに認め合う時間を確保してきました。この成果を受けて、めあてを意識できる子が増え、目的意識をもって活動に取り組んでいます。今後も、活動中の意識や、自分のやりたいことが言葉になっているのかなど、「なりたい自分」に向けた児童の主体性を高めることで向上を図っていきます。

「友達に気持ちの良い挨拶をしている」(No.4)では、「当てはまる」が61%、「どちらかと言えば、当てはまる」が27%でした。挨拶の場や方法を学ぶために、まず手本となる挨拶を教師が進んで行ったり、良い表れの児童に対して「いい声だね」「気持ちが伝わるよ」といった声を掛けたりして意識を高めてきました。挨拶の大切さはどの子も感じられており、これを互いに声を掛け合う気持ちの良さにつなげていくための手立てを今後も工夫していきます。

- ・「授業で自分の考えを進んで伝えた」(No.7)では、「当てはまる」が49%、「どちらかと言えば、当てはまる」が29%でした。授業で取り組む目標や教師側の質問、投げ掛けを工夫することで、子どもたちが主体的に活動できる環境を整えてきました。また、どのように学んでいくのか学習の見通しがもてるような授業を計画し、学びの振り返りを通して、「できるようになった」という実感をもてるようにしました。進んで考えを伝えようとするところまでは十分には届きませんでしたが、一人一人の考える力は伸びてきています。

「進んで読書をしている」(No.9)では、「当てはまる」が52%、「どちらかと言えば、当てはまる」が23%でした。図書担当を中心に、1学期に効果的であった図書館デーや読み聞かせ等の取り組みを継続しました。また、家庭学習や親子読書など家庭とつながる読書の機会を考え、実施してきました。数値としては減少しましたが、本に親しんでいる子は多いです。

## Ⅱ 今後の取組について

### ○生活づくり

自己有用感の育成を目指します。

そのために、本年度の取り組みと同様、「なりたい自分」を子どもたち自身が考えることで、自分事として振り返ることができるようにします。また、認め励ます言葉掛けについても、本年度は教職員が中心でしたが、子ども同士でも声を掛け合い、認め合える場を広げていきます。挨拶についても同様に、認め合いの言葉掛けを重視し、「ありがとう」と伝え合えるように取り組みます。

### ○学びづくり

関り合える学力の育成を目指します。

そのために、子どもたち同士が関わるための基礎・基本の定着を第一に考えます。朝の15分間で「学びのステージ」の時間を設け、低学年では言葉の区切りについての学習や読書への親しみ、中学年以降ではより教科の学びを高めるため、計算の基本や漢字の定着を図っていきます。基礎を高める働き掛けをした上で、関わり合い、「授業で自分の考えを進んで伝えた」と言える子が増えることを期待しています。